

# 第2回大阪蘇生アカデミー —救急現場への教育—



← Captain Jonathan Larsen

救急現場へ蘇生科学に関する知見を還元し、情報共有することで救急システムの質を向上させていくために企画致しました。今回は、米国シアトル市消防のCaptain Jonathan Larsenをお招きし、救急隊教育システム、救急活動評価のフィードバックの方法についてお話しいたします。是非、ご参加ください。(通訳あり) 損はさせませんよ～♪

【日時】 2014年12月6日(土)11時～17時 (開場10時30分)

【会場】 大阪市消防局 7F 講堂 (住所:大阪市西九条南1-12-54)

【参加費】 無料(ただし、昼食は各自ご持参ください。飲食可能なスペースは準備致します。)

【定員】 200名(事前にお申し込み下さい)

【申し込み先】

<https://ssl.formman.com/form/pc/2TyEWWij5GR9LEPU/>



**注意) 大阪府下の消防機関の方は、所属を通してお申し込み下さい。**

【問い合わせ】

京都大学 健康科学センター 担当:中村 TEL: 075-753-2426

# プログラム

| 時間          | 内容   |
|-------------|--|
| 11:00-11:05 | <b>Opening</b><br>大阪市消防局 救急部長 城戸 秀行  |
| 11:05-11:30 | <b>特別講演1</b><br>「処置拡大とこれからのメディカルコントロール体制」<br>座長:大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター 教授 嶋津 岳士<br>演者:厚生労働省医政局地域医療計画課 救急・周産期医療等対策室 病院前医療対策専門官 酒井 智彦  |
| 11:30-12:30 | <b>特別講演2</b><br>「救急救命士の教育、現場活動のフィードバック方法について」<br>座長:京都大学 健康科学センター 准教授 石見 拓<br>演者: Medical Services Captain Seattle Fire/Medic One<br>Captain Jonathan Larsen   |
| 12:30-13:45 | 休憩   |
| 13:45-14:30 | <b>協賛業者機器説明会</b><br>司会:大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター 助教 吉矢 和久   |
| 14:30-15:00 | <b>教育講演</b><br>「大阪救急症例帖<br>一救急現場におけるピットフォールとエッセンシャルズー」<br>座長:松原市消防本部消防署 救急係長 山地 真輔<br>演者:大阪府立急性期・総合医療センター 救急診療科 木口 雄之  |
| 15:00-15:15 | 休憩   |
| 15:15-17:15 | <b>シンポジウム</b><br>「現場で活躍する救急救命士の最新の取り組み」<br>座長:関西医科大学附属滝井病院 救急医学科 教授 中森 靖<br>大阪市消防局 救急部 救急課 救急施策担当課長代理 林田 純人<br><b>演題</b><br>①高槻市消防本部 「三島救命救急センターとの連携」<br>②大阪市消防局 「院外心停止傷病者に対する酸素飽和度(rSO2)モニタリングの取り組み」<br>③米国アリゾナ州からの報告<br>「救急隊から得られた“蘇生の質”データが、蘇生ガイドラインを変える！」<br>④堺市消防局「緊急度判定体系について」 |
| 17:15-      | <b>Closing</b><br>大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター 教授 嶋津 岳士  |

主催: NPO法人 大阪ライフサポート協会

共催: 大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター・京都大学 環境安全保健機構 附属健康科学センター

後援: 大阪府・大阪市

## 第二回 大阪蘇生アカデミー開催概要

副題:救急現場への教育

日時:平成 26 年 12 月 6 日 11:00-17:00

場所:大阪市消防局

趣旨:『救急現場への教育』をテーマに、現場で活躍する救急救命士の最新の取り組みというテーマのシンポジウムを用意するとともに、第一線で活躍している救急医から普段の救急業務における救急隊員にとってのピットフォールに関するご講演をしていただいた。キーレクチャーには、厚生労働省の立場から病院前救急医療の充実に尽力されている先生に加え、院外心停止患者における世界的に高い救命率で知られる地域である、シアトルから Captain Jonathan Larsen をお招きし、救急現場で活躍する救急隊員への教育の重要性についてご講演いただいた。

成果:医師、看護師、救急救命士、消防士と様々な職種から延べ 173 人と多数の参加者を得られた。院外心停止事例や心肺蘇生に関する海外の最新の取り組みや、日本の現場からの報告を通じて、最前線で働いている方々が集めているデータによって、それらの取り組みを科学的に評価し、エビデンスに繋げて発展させることの重要性を広く伝える事ができた。アンケートからも、参加者の多くが参加に満足しており、次回開催を期待している事が窺えた。

参加者数:延べ 173 人

<共催>大阪大学高度救命救急センター、京都大学健康科学センター

<後援>大阪府、大阪市

<協賛>旭化成ゾールメディカル株式会社、株式会社藤田医科機器、株式会社 CU、都ユニリス株式会社、フィジオコントロールジャパン株式会社、フクダ電子株式会社、株式会社 NTT データ関西、株式会社 JMS、日本光電、レールダルメディカルジャパン株式会社

